

徳島県阿南市加茂谷^{かもだに}地域における住民主体のむらづくり

徳島県推薦都市農村交流アドバイザー（分野：合意形成）

山浦 晴 男

（情報工房代表・千葉大学大学院特命教授）

1. 地域住民の自発性を支援した県事業が起点

加茂谷地域は、徳島県の南東部に流れる一級河川那賀川の中流域に点在する 10 カ町（集落）で構成されている。昭和 33 年阿南市に合併する前は、那賀郡加茂谷村だった。

日本の中山間村地域が共通して抱える問題、①高齢化、②人口減少、③農業の衰退、に対処すべく、各地域の代表者が集まり、地域の将来像について検討。平成 24 年 12 月に「加茂谷元気なまちづくり会」を設立。過疎化が進行する地域の活性化に向けて住民が自発的に考え始めていた折り、平成 25 年度の「徳島県都市農村共生・対流事業」を導入し、「寄りあいワークショップ」（拙著『地域再生入門 寄りあいワークショップの力』2015 年、ちくま新書）によって活性化実行計画を立案。そこから本格的な取り組みが始まった。

地域住民主体の取り組みは、①平成 28 年度「徳島県優良農村集団知事賞」受賞、②平成 29 年度「豊かなむらづくり表彰農林水産大臣賞」受賞、③平成 30 年度「第 5 回ディスカバー農山漁村の宝」選定。このことがまた地域住民を励ますことにつながっている。

2. 実行計画の 9 割を実現

寄りあいワークショップによって加茂谷地域の住民が立案したのが、図 1 の「アイデアの実行計画」（左側）である。そして、会が発足して 5 年後の平成 29 年度の時点では、図 1 の➡の右側に示すように計画の 9 割が実行に移され、成果を上げている。

①高齢化、②人口減少に対して、I ターン人材の受け入れに力を入れており、平成 30 年度末時点で、13 家族 45 人（うち子ども 22 人）が移住している。③農業の衰退に対しては、地元スーパーの支援もいただき、大根 1 本からでも値段と販売店を指定して出荷できる店舗内産直販売システムを構築した。また、スマホ上で売れ筋情報・自分の売り上げ情報を見られるシステムを地元高等専門学校の協力のもと作り上げスーパーに提案し、採用された。こうして、高齢者でもできる農業、I ターン者も取り組み易い農業づくりに取り組んでいる。

3. 次世代の地域継承に向け第 2 弾の取り組みへ

令和元年には、加茂谷元気なまちづくり会の更なる活動目標を設定すべく、同会の要望に基づき第 2 弾の寄りあいワークショップを行った。（写真 1、2）地域全体への呼びかけと、子育て中の女性陣が参加しやすいよう、開催も土曜の午後とし、この種の取り組みでは画期的な預かり保育も行った。

図 2 は、次世代の地域継承に向けての地域活性化実行計画である。

4. 地域再生に向けた学び

加茂谷地域の取り組みからは、次のような学びを得た。

- ①地域住民主体の計画づくりに向けたワークショップの設営・提供、実行支援の行政の役割の重要性
- ②「寄りあいワークショップ」のような課題解決と合意形成がセットの方式の役割の重要性
- ③地域でのワークショップの設営と計画実行の推進のリーダーの存在の重要性

すなわち、「加茂谷元気なまちづくり会」会長や事務局長のようなリーダーの存在と合意形成された手づくりの実行計画、行政の支援の三位一体が地域再生の骨子となる。

図1：第1弾WSのアイデアの実行計画（平成25年度）と5年後の実施状況

優先順位	アイデア項目	難易度	実現の目標時期			役割主体			着手順位	備考	5年経過後の実行状況
			短期	中期	長期	住民	行政等と協働	行政			
1	加茂谷HPの立上げ	C	○			○	○		1		⇒ホームページ・フェイスブックページの開設
2	ネット活用による空き家の再利用	B		○		○	○		2	NPOの結成	⇒借りれる空き家が埋まり家主と交渉中
3	加茂谷産直市	B		○		○	○		5		⇒すきとく市により販路拡大(自主財源に)
4	加茂谷HPによるネット販売	C	○			○	○		2	生産者との協働	⇒未実施ではあるが、阿南高専との連携や6次産業化にも取り組んでいる
5	小学校を起点とした遍路道体験ルートづくり	C	○			○	○		4		⇒へんろ道会が保全活動や体験ウォークを実施
6	婚活	C	○			○	○		3		⇒鯉まつり・桜まつりにて実施
7	遊休農地のリース制度	B			○	○			6	NPOの結成	⇒優良遊休地は順次、新規就農者へ紹介
8	小学校の活用(お遍路さんの宿泊)	A			○	○	○		8		⇒休校中であるため、手が加えられない。一時的なイベント時には活用(かもかもフェスタ等)。どうか活用法を検討中。
9	小学校の活用(住民のたまり場)	A			○	○	○		8		
10	地域おこし協力隊の結成	B		○		○			7		⇒地域おこし協力隊2名を受け入れ

備考1:難易度(A:難しい、B:普通、C:易しい)
備考2:短期(1年以内)、中期(2~3年以内)、長期(4~5年以内)

図2：第2弾WSのアイデアの実行計画（令和元年度）

優先順位	アイデア項目/記号:タイトル:得点	難易度	実現の目標時期(●印の記入)			役割分担・主体(誰がやるか)(●印の記入)			着手順位		備考
			短期:1年	中期:2~3年	長期:4~5年	住民	協働	行政	順位	評価得点	
1	と:産直寄り合いショップ:74点	B		●		●	●		2	65	JAとも連携
2	お:大井小学校を学び・交流の場として利用:34点	A			●	●	●		5	44	
3	す:加茂谷地区ツアー企画:33点	C	●			●			4	53	
4	ひ:空家を利用した移住者の促進:28点	C	●			●			1	74	
5	け:加茂谷史跡公園の整備:24点	A			●		●	●	10	16	住民提案
6	や:子どもから高齢者が利用できるコミュニティバスの設置:19点	B			●	●	●		7	36	
6	つ:加茂谷情報発信センター:19点	C	●			●			3	58	
8	さ:「加茂谷ブランド」ロゴデザイン:17点	C	●			●			6	43	
9	も:主要地方道の整備で住み良いまちづくり:16点	A			●		●	●	8	22	
10	あ:小中学校山村留学の導入:14点	A		●		●	●		9	21	
10	う:大井小を「芸術の森」として開校:14点	A		●		●	●		12	2	
10	ふ:空家アートで人を呼ぼう:14点	A		●		●			11	9	

備考1:難易度:Aは難しい、Bは普通、Cは易しい 備考2:役割主体の協働の場合は、どちらが推進役になるかも明示する

写真1（左）：第3回WSイラストアイデア地図の作成と実行の優先度評価

写真2（右）：第2弾の計画の実現に向けて頑張るぞ！

